

近年のイギリスの 生乳生産動向に関する一考察

A Study on the Recent Trend of Cow's Milk Production in the United Kingdom

平 岡 祥 孝

目 次

- I. はじめに
- II. EU生乳部門におけるイギリスの位置
- III. イギリスの生乳生産の動向
- IV. むすびにかえて

I. はじめに

小稿の課題は、連合王国（the United Kingdom、以下イギリスと記す）における近年の生乳生産の動向を、統計的に分析することにある。周知の通り、生乳（酪農）部門は、EU価格を国際価格水準以上に維持するうえから、輸入課徴金と輸出払戻金の両制度の運用を通して支持されている。イギリスの生乳生産量の約半分は飲用乳市場で利用され、残り分は乳製品製造市場で利用されている。

イギリスにおいて生乳生産の発展基盤が確立したのは、第二次世界大戦下であると言える。1939年以前におけるイギリスは、自国の食料供給の優に半分以上を輸入食料に依存していた。それは、1846年の穀物条例（Corn Laws）廃止以来、自由貿易体制の下で安価な食料を追求してきた政策

(cheap food policy) の結果でもあった。そのような状況にあっても、完全自給を達成している食料品目は飲用牛乳だけであった。

第二次世界大戦の勃発とともに、牛乳は戦時下の国民食料の中で極めて重要な食料と位置付けられた。その主たる理由としては、①食料自給の観点から、牛乳の国内生産が可能であったこと、②栄養上の観点から、牛乳はタンパク質を摂取する上で栄養価の高い食品であったこと、が挙げられる。したがって、畜産の中では生乳生産の維持が最優先されたことは、当然の帰結であった。他方、酪農経営から見ると、安価な輸入飼料に依存することが不可能になった状況に直面して、草地の効率的利用を促進する面からも、生乳生産の維持・拡大が図られることになる。飼養牛乳が「草や茎葉の最も能率のよい利用者」であったからである。それゆえ、飼養牛頭数を維持する政策が採用された。

とりわけ、イングランド・ウェールズにおいては、1933年に設立された生産者生乳販売組織であるミルク・マーケティング・ボード (Milk Marketing Board of England and Wales, MMB)¹⁾ が生乳生産政策に果たした役割は大きい。生乳流通分野において活動していたMMBが生乳生産分野にまで活動範囲を拡大したのである。²⁾

1939年に導入された戦時統制は戦後53年まで継続された。その間に、1947年農業法 (Agriculture Act, 1947) が制定され、イギリス農業に安定 (stability) と能率 (efficiency) という政策目的を提示している。³⁾ そして、1954年から新しく生乳について不足払い制度が導入された。⁴⁾ 生乳に関しては、国内で生産することが望まれる数量は飲用乳需要に見合う数量とされた。しかしながら、生乳生産の季節性への対応として、季節変化の小さい飲用乳消費量を確保するために、冬季需要の充足に際して夏季の余乳発生が考慮されたのである。当該不足払い制度は飲用向け生乳に対してのみ適用され、加工原料向け生乳に対しては適用されなかった。

1973年に欧州共同体 (European Community, EC) への加盟が正式決

定し、移行期間を経て1978年1月1日から共通農業政策（Common Agricultural Policy, CAP）の全面的適用を受けることになった。周知のように、CAPは、農産物に対する価格支持政策を中心として運用されていたので、生乳部門でも生産を刺激して、1970～80年代前半にかけて膨大な過剰生産を引き起こした。ECは様々な生産抑制政策を導入したにもかかわらず、さしたる効果は見られなかった。

それゆえ、最後の手段として、1984年4月1日から生乳生産割当制度（生乳クォータ制度）を導入したのである。⁵⁾ 後述するように、生乳クォータ制度は、EC域内全体の生乳全体の需要量を飲用向けと加工原料向けの両者を確定し、加盟国別に分割して配分する。さらに、各国は基準年次における生乳出荷実績に基づいて農場（生乳生産者）あるいは集荷元の乳業者に生産数量枠を配分する。イギリスにおける生乳クォータ制度の運用は、酪農廃業計画（Milk Outgoers' Scheme）を併用しつつ成功裡に進展したのであった。⁶⁾

しかしながら、1990年代に入ると、イギリス農業は激動の時代を迎えたと言われている。生乳クォータ制度の運用がさらに継続される状況にあって、とりわけ1990年代後半以降は、「イギリス農業は1930年代に匹敵するほどの歴史的な危機に直面している」⁷⁾との指摘がなされるようになった。まず、この点を確認しておきたい。

表I-1は、1994/95～2002/03年度における2001/02年度価格表示に基づいて示した農場類型別1農場当たり農業経営純所得の推移である。これはイギリス全体で見ている。同表から明らかなことは、一見してどの部門も純所得が減少していることである。2002/03年度ではやや回復が予測されているが、耕種一般ではさらなる減少の恐れがある。1994/95～2002/03年度における酪農部門（生乳部門）の状況を見ると、1995/96年度が最も高く4万7,800ポンドであったが、それ以降1990/2000年度まで大きく落ち込んでいる。1999/2000年度では9,900ポンドであり、1995/96年

度に比較して21%程度の水準である。1990/2000年度から2001/02年度までは上昇して、2001/02年度では2万3,200ポンドまで回復したけれども、1995/96年度の49%程度止まりである。イギリス全体では、翌02/03年度も低下傾向が予測されている。このように、危機的な状況は生乳部門にもあてはまるものである。

それでは、かかる危機的な状況と言われる近年のイギリスの生乳生産動向は如何なるものであろうか。したがって、小稿では、イギリスの生乳生産の動向について、まず欧州同盟（European Union, 以下EU）における位置を明らかにする。そして、イギリス国内の生産状況について、イングランド（England）、ウェールズ（Wales）、スコットランド（Scotland）、北アイルランド（Northern Ireland）の4地域を比較しつつ、1990年代に焦点を当てて統計的に分析していきたい。

表 I - 1 2001/02年度価格表示に基づく農場類型別1農場当たり農業経営純所得の推移（1994/95～2002/03年度）

	1994/95 (千ポンド)	1995/96 (千ポンド)	1996/97 (千ポンド)	1997/98 (千ポンド)	1998/99 (千ポンド)	1999/00 (千ポンド)	2000/01 (千ポンド)	2001/02 (千ポンド)	2002/03 (千ポンド)
酪農	40.4	47.8	37.8	23.3	13.6	9.9	12.6	23.2	18.0
牧牛・牧羊(LFA)	9.0	13.4	13.0	6.8	3.2	1.9	3.9	4.8	13.0
牧牛・牧羊(低地)	9.4	9.9	8.0	0.7	-0.3	—	—	0.4	7.5
穀作	41.4	63.3	55.0	18.2	8.9	14.0	6.9	3.3	7.0
耕種一般	89.6	101.3	51.3	21.7	36.9	8.2	19.1	15.7	13.0
養豚・養鶏	32.0	65.9	58.3	19.3	-18.7	-4.8	34.2	19.7	26.0
混合	38.0	54.0	40.2	6.0	1.3	5.8	8.9	6.4	15.0
平均	35.1	45.4	34.6	14.7	9.7	6.9	8.6	10.1	13.0

注)

- 1) 「農業経営純所得」(Net Farm Income)は、①地代相当収入、および②経営主と配偶者以外の家族労働報酬を含まない。
- 2) 口蹄疫による強制殺処分対象農場を含まない。
- 3) LFAは、条件不利地域 (Less Favoured Areas)で粗放的な畜産が営まれている。
- 4) 2002/03年度数値は見直し。

出所) DEFRA *et al.* [16] p.18 Table.2.7を参考にして作成。

II. EU生乳部門におけるイギリスの位置

まず、近年におけるEUにおけるイギリスの位置を確認しておきたい。以下、本章では、EUの第4次拡大時点以降、すなわちオーストリア、フィンランド、スウェーデンが1995年にEU加盟した15か国体制の中で検討していく。

表II-1は、2002年における個別製品の最終農畜産物生産に占める比率を示している。農業生産額で見ると、イギリスは232億2,900万ユーロ(euro)であり、EU全体(2,824億800万ユーロ)に占める割合は8.2%強である。フランス、ドイツ、イタリア、スペインに次いで第5位であり、オランダより上位に位置している。農業生産額では、農業大国フランスの36.5%程度、ドイツの52.4%程度である。個別製品で見ると、イギリスでは生乳生産の比率は18.9%と最も高く、EU平均の14.5%を上回っている。しかし、ドイツ21.0%、ルクセンブルク34.8%、フィンランド27.9%、アイルランド26.4%、スウェーデン23.9%の方が比率は高い。ただし、農業生産額では約43億9,028万ユーロとなっている。これはドイツの93億1,749万ユーロ、フランスの78億8,020万ユーロに次いで第3位となる。

表II-1 個別産物の最終農業生産に占める比率(2002年)

	穀物 (%)	生鮮果実 野菜 (%)	生乳 (%)	鶏卵・家禽 (%)	牛 (%)	その他家畜 (豚・羊・山羊) (%)	その他 農作物 (%)	農業生産額 (百万ユーロ)
ドイツ	14.2	4.7	21.0	4.8	7.1	15.3	32.9	44,369
フランス	11.3	9.6	12.4	6.4	11.7	7.0	41.6	63,550
イタリア	5.6	22.3	10.1	6.4	8.1	7.3	40.2	42,630
オランダ	0.9	11.6	18.5	5.5	4.8	13.0	45.7	20,650
ベルギー	4.2	15.3	12.6	5.8	12.6	21.8	27.7	7,317
ルクセンブルク	7.2	1.7	34.8	2.3	21.1	7.6	25.3	257
イギリス	13.9	9.4	18.9	11.9	15.0	10.0	20.9	23,229
アイルランド	5.0	3.7	26.4	3.1	29.8	12.1	19.9	5,879
デンマーク	18.2	1.6	16.7	3.2	4.1	31.4	24.8	9,093
ギリシア	5.9	30.0	8.5	3.0	2.5	9.8	40.3	11,185
スペイン	6.6	28.0	7.0	6.5	5.9	18.7	27.3	34,705
ポルトガル	1.8	26.5	12.0	9.4	5.7	12.4	32.2	5,944
オーストリア	9.0	7.7	17.5	3.9	11.7	15.0	65.2	5,357
フィンランド	16.9	5.1	27.9	3.4	7.6	7.3	31.8	3,842
スウェーデン	18.3	3.9	23.9	4.6	10.4	9.0	29.9	4,401
EU15カ国	9.5	13.8	14.5	6.1	9.1	12.2	34.8	282,408

出所) MDC[20] p.161, Table122を参考にして作成。

表Ⅱ－２は、1990～2002年における飼養乳牛頭数の推移を示している。他の加盟国と同様に、イギリスも乳牛頭数を減少させている。1990年では289万頭であった。しかし、2000年では240万頭を下回って、2001年では220万3,000頭にまで減少している。24%近く減少していることになる。ちなみに、2002年は222万9,000頭となり、前年より2万6,000頭増加している。乳牛頭数の減少はドイツ、フランスでは顕著と言える。1990～2002年の期間で見ると、ドイツでは635万5,000頭から436万7,000頭に、フランスでは527万2,000頭から415万6,000頭に、それぞれ198万8,000頭、111万6,000頭減少している。同様に、オランダでは191万7,000頭から148万6,000頭に、デンマークでは76万9,000頭から61万3,000頭に減少している。

他方、経営規模を見てみよう。2002年の平均飼養乳牛頭数で見ると、イギリスはドイツ、フランスに次いで第3位であるが、経営規模を示す平均飼養乳牛頭数規模は97頭であり、ドイツ36頭、フランス35頭よりはるかに大きい。2位のデンマーク76頭より21頭大きい。イギリスの生乳生産は大規模経営が主体となっていることが伺える。

表Ⅱ－２ 飼養乳牛頭数（1990～2002年）

	1990 (千頭)	1991 (千頭)	1992 (千頭)	1993 (千頭)	1994 (千頭)	1995 (千頭)	1996 (千頭)	1997 (千頭)	1998 (千頭)	1999 (千頭)	2000 (千頭)	2001 (千頭)	2002 (千頭)	2002年平均 飼養頭数 規模(頭)
ドイツ	6,355	5,632	5,365	5,301	5,273	5,229	5,195	5,026	4,833	4,709	4,539	4,475	4,367	36
フランス	5,272	4,968	4,674	4,615	4,754	4,672	4,562	4,476	4,416	4,421	4,413	4,205	4,156	35
イタリア	2,664	2,535	2,317	2,287	2,167	2,080	2,070	2,078	2,216	2,215	2,172	2,169	1,911	34
オランダ	1,917	1,881	1,821	1,777	1,757	1,777	1,646	1,634	1,611	1,588	1,505	1,546	1,486	60
ベルギー	831	797	741	703	720	684	649	641	649	637	629	611	591	38
ルクセンブルク	59	52	51	51	49	49	48	46	46	45	44	44	42	39
イギリス	2,890	2,779	2,747	2,786	2,767	2,632	2,511	2,498	2,475	2,438	2,339	2,203	2,229	97
アイルランド	1,322	1,293	1,262	1,274	1,269	1,267	1,272	1,269	1,276	1,261	1,152	1,148	1,129	43
デンマーク	769	746	708	711	717	714	697	695	680	681	644	628	613	76
ギリシア	242	214	205	206	168	185	184	184	172	154	180	172	165	17
スペイン	1,575	1,516	1,447	1,370	1,331	1,281	1,283	1,254	1,301	1,201	1,176	1,173	1,107	25
ポルトガル	396	394	381	375	368	364	362	362	355	357	355	338	341	18
オーストリア	884	865	842	826	810	706	633	630	618	619	621	612	600	10
フィンランド	488	436	426	419	413	402	396	383	380	374	358	352	343	18
スウェーデン	576	528	526	525	503	482	478	462	471	447	426	425	403	39
EU15カ国	26,239	24,636	23,513	23,228	23,066	22,524	21,946	21,638	21,504	21,148	20,579	20,100	19,483	36

出所) DC[13]～DC[15] を参考にして作成。

表Ⅱ－3は、1990～2002年における生乳生産量の推移を示している。統一ドイツの数値となる1991～2002年の期間を通して、イタリア、スペイン、ギリシアは生産量を増加させているが、全体的には漸減傾向を示していると言える。EU全体を見ると、1991年の1億2,313万tから2002年の1億2,144万8,000tに、168万2,000t減少している。イギリスでは、1991年以降は1,500万tの水準を割り込んでおり、2002年には1,486万9,000tであった。優に1,000万t以上の量的格差はあるが、イギリスの生乳生産量は、ドイツ2,787万4,000t、フランス2,517万3,000tに次いで第3位である。

表Ⅱ－3 生乳生産量（1990～2002年）

	1990 (千t)	1991 (千t)	1992 (千t)	1993 (千t)	1994 (千t)	1995 (千t)	1996 (千t)	1997 (千t)	1998 (千t)	1999 (千t)	2000 (千t)	2001 (千t)	2002 (千t)
ドイツ	23,672 ¹⁾	29,063	27,979	28,098	27,866	28,621	28,779	28,702	28,329	28,334	28,332	28,191	27,874
フランス	26,536	25,663	25,315	25,048	25,322	25,413	24,832	24,644	24,585	24,614	24,734	24,879	25,173
イタリア	10,662	10,493	10,315	10,034	10,055	10,497	10,068	10,540	11,250	11,072	10,774	10,793	10,879
オランダ	11,285	11,047	10,902	10,953	10,975	11,294	11,013	10,922	10,995	11,174	11,155	10,970	10,677
ベルギー	3,610	3,543	3,514	3,329	3,344	3,375	3,416	3,213	3,418	3,362	3,425	3,357	3,450
ルセブルク	282	265	260	268	262	269	267	266	266	267	267	269	270
イギリス	15,251	14,770	14,684	14,740	14,981	14,675	14,672	14,821	14,632	15,013	14,489	14,707	14,869
アイルランド	5,557	5,498	5,389	5,324	9,402	5,415	5,407	5,366	5,200	5,225	5,265	5,445	5,293
デンマーク	4,742	4,640	4,605	4,660	4,642	4,676	4,695	4,633	4,668	4,656	4,719	4,618	4,656
ギリシア	716	711	731	742	769	764	741	750	749	775	789	778	758
スペイン	5,752	6,619	6,143	6,112	5,656	6,150	6,084	5,979	5,980	6,172	5,900	6,224	6,345
ポルトガル	1,714	1,737	1,715	1,587	1,638	1,750	1,785	1,814	1,850	2,043	2,060	1,983	2,106
オーストリア	3,350	3,330	3,287	3,270	3,278	2,948	2,957	3,015	3,043	3,132	3,233	3,300	3,292
フィンランド	2,811	2,551	2,471	2,457	2,507	2,468	2,431	2,463	2,447	2,475	2,524	2,530	2,532
スウェーデン	3,508	3,200	3,201	3,352	3,421	3,304	3,316	3,334	3,331	3,350	3,348	3,339	3,274
EU15カ国	119,448	123,130	12,509	119,980	120,118	121,618	120,463	120,482	120,743	121,681	121,013	121,383	121,448

注)

- 1) 旧東ドイツを除く。
 - 2) 1991年よりバレアレス諸島を含む。
- 出所) DC[13]～DC [15] を参考に作成。

表Ⅱ－4は、1990～2002年における飼養乳牛1頭当たり産乳量の推移を示している。2002年を見てみよう。オランダ、デンマーク、フィンランド、スウェーデンが7,000kgを超えて上位に位置している。スウェーデンが最も高く7,908kgである。アイルランドとギリシアは5,000kg未満であり、下位に位置している。ギリシアが4,499kgと最も低い。イギリスは6,710kgで

あり、前記4か国の次に位置している。ドイツは6,305kg、フランスは6,022kgである。イギリスは飼養乳牛頭数ではドイツやフランスよりもはるかに少ないけれども、産乳量においては両国よりも高い。

ここで特徴的なことは、まず産乳量に関しては加盟国間で二極化していることである。2002年では、6,000kg台、7,000kg台の加盟国は9か国、4,000kg台、5,000kg台の加盟国は6か国である。そして、どの加盟国においても一貫して産乳量が向上してきていることである。イギリスでは、1990年では5,296kgであったが、2002年の6,710kgまで1,414kg向上させた。26.7%の伸びである。

表Ⅱ-4 飼養乳牛1頭当たり産乳量（1990～2002年）

	1990 (kg/頭)	1991 (kg/頭)	1992 (kg/頭)	1993 (kg/頭)	1994 (kg/頭)	1995 (kg/頭)	1996 (kg/頭)	1997 (kg/頭)	1998 (kg/頭)	1999 (kg/頭)	2000 (kg/頭)	2001 (kg/頭)	2002 (kg/頭)
ドイツ	4,919 ¹⁾	4,883	5,129	5,308	5,318	5,460	5,522	5,616	5,744	5,935	6,110	6,238	6,305
フランス	5,008	5,165	5,371	5,508	5,558	5,566	5,378	5,453	5,530	5,571	5,600	5,774	6,022
イタリア	3,943	4,021	4,269	4,361	4,543	4,913	4,852	5,082	5,240	4,998	4,912	4,973	5,334
オランダ	5,921	5,890	6,013	6,178	6,335	6,500	6,636	6,742	6,777	6,986	7,213	7,191	7,043
ベルギー	4,261	4,374	4,549	4,676	4,765	4,842	5,076	4,981	5,299	5,260	5,409	5,413	5,740
ルクセンブルク	4,761	4,772	4,885	5,301	5,286	5,532	5,534	5,660	5,770	5,840	5,991	6,158	6,286
イギリス	5,296	5,271	5,394	5,426	5,455	5,535	5,706	5,926	5,885	6,112	6,066	6,476	6,710
アイルランド	3,976	4,168	4,201	4,177	4,214	4,220	4,258	4,223	4,086	4,119	4,362	4,733	4,649
デンマーク	6,229	6,189	6,400	6,547	6,568	6,596	6,655	6,657	6,790	6,842	7,123	7,261	7,504
ギリシア	3,158	3,217	3,527	3,631	4,332	4,286	4,071	4,076	4,208	4,755	4,725	4,420	4,499
スペイン	3,498	4,211 ²⁾	4,114	4,311	4,163	4,792	4,740	4,713	4,681	4,934	4,964	5,299	5,566
ポルトガル	3,670	3,793	4,285	4,215	4,430	4,795	4,917	5,011	5,160	5,730	5,787	5,723	6,205
オーストリア	3,755	3,811	3,831	3,939	4,008	3,976	4,653	4,774	4,877	5,064	5,215	5,353	5,432
フィンランド	5,686	5,622	5,751	5,790	6,020	6,123	6,095	6,330	6,416	6,567	6,900	7,129	7,287
スウェーデン	6,217	6,038	6,197	6,506	6,754	6,780	6,908	7,094	7,140	7,298	7,670	7,847	7,908
EU15カ国	4,787 ¹⁾	4,876 ²⁾	5,052	5,183	5,251	5,396	5,433	5,529	5,597	5,706	5,800	5,968	6,136

注)

1) 旧東ドイツを除く。

2) 1991年よりバレアレス諸島を含む。

出所) DC[13]～DC[15] を参考にして作成。

表Ⅱ-5は、1995/96～2002/03年度における総クォータ数量枠の推移を示している。クォータ制度は、域内の生乳市場の需給均衡を達成するために各加盟国別にクォータ数量枠を設定して、その超過数量分については当該生産者に対して課徴金を課す方式となっている。言い換えれば、クォー

夕制度はEUの生乳生産を抑制的に管理している。1995年のEU第4次拡大以降は、EU全体の総量枠は約1,442tの増加にとどまっている。ちなみに、クォータ制度は2014/15年度まで継続され、2004/05年度からは3年間クォータ数量枠が、毎年度0.5%ずつ拡大されることになっている。⁸⁾

表Ⅱ－５ 総クォータ数量枠（1995/96～2002/03年度）

	1995/96 (千t)	1996/97 (千t)	1997/98 (千t)	1998/99 (千t)	1999/2000 (千t)	2000/01 (千t)	2001/02 (千t)	2002/03 (千t)
ドイツ	27,864.8 ⁹⁾	27,864.8 ⁹⁾	27,864.8	27,864.8	27,864.8	27,864.8	27,864.8	27,864.7
フランス	24,235.8	24,235.8	24,235.8	24,235.8	24,235.8	24,235.8	24,235.8	24,235.8
イタリア	9,930.1	9,930.1	9,930.1	9,930.1	9,930.1	10,314.1	10,530.1	10,530.1
オランダ	11,074.7	11,074.7	11,074.7	11,074.7	11,074.7	11,074.7	11,074.7	11,074.7
ベルギー	3,310.4	3,310.4	3,310.4	3,310.4	3,310.4	3,310.4	3,310.4	3,310.5
ルクセンブルク	269.0	269.0	269.0	269.0	269.0	269.0	269.1	269.1
イギリス	14,590.0	14,590.0	14,590.0	14,590.0	14,590.0	14,602.7	14,609.8	14,609.7
アイルランド	5,245.8	5,245.8	5,245.8	5,245.8	5,245.8	5,341.8	5,395.8	5,395.8
デンマーク	4,455.3	4,455.3	4,455.3	4,455.3	4,455.3	4,455.3	4,455.3	4,455.4
ギリシア	630.5	630.5	630.5	630.5	630.5	675.3	700.5	700.5
スペイン	5,567.0	5,567.0	5,567.0	5,567.0	5,567.0	5,917.0	6,317.0	6,116.9
ポルトガル	1,872.5	1,872.5	1,872.5	1,872.5	1,872.5	1,872.5	1,872.5	1,870.5
オーストリア	2,736.8	2,749.4	2,749.3	2,749.4	2,749.4	2,749.4	2,749.4	2,749.4
フィンランド	2,365.7	2,349.3	2,398.2	2,404.5	2,406.2	2,406.6	2,407.0	2,407.0
スウェーデン	3,303.0	3,303.0	3,303.0	3,303.0	3,303.0	3,303.0	3,303.0	3,303.0
EU15カ国	117,451,458	117,492,633	117,496,489	117,502,858	117,504,522	118,392,387	118,895.0	118,893.0

注) 旧東ドイツを含む。

出所) DC[13]～DC[15]、MDC[20] を参考にして作成。

表Ⅱ－6は、1995～2001年における農場出荷生産者生乳価格の推移を示している。生乳価格は乳脂率3.7%基準で調整している。最も注目すべきことは、イギリスの生産者生乳価格が下位に位置していることである。たとえば、2001年を見ると、ドイツ32.82ユーロ、フランス30.00ユーロ、オランダ31.27ユーロ、デンマーク32.34ユーロに比べて、イギリス29.16ユーロは低い。アイルランド28.55ユーロ、ベルギー28.58ユーロに次いで下位から3番目に低い。この乳価の低位水準は、表Ⅰ－1において示した生乳(酪農)部門の農業経営純所得低迷の基本的要因である。

最後に、生乳成分のうち乳脂肪とタンパク質の含有率を見ておきたい。表Ⅱ－7は1995～2002年における平均乳脂率の推移を、表Ⅱ－8は1995～

表Ⅱ－6 農場出荷生産者生乳価格（1995～2001年）

	1995 (ecu/100kg)	1996 (ecu/100kg)	1997 (ecu/100kg)	1998 (ecu/100kg)	1999 (euro/100kg)	2000 (euro/100kg)	2001 (euro/100kg)
ドイツ	29.80	28.70	28.19	29.52	28.47	30.00	32.82
フランス	28.63	28.72	28.11	28.52	28.11	28.81	30.00
イタリア	31.78	36.45	37.24	34.84	34.23	n.a	n.a
オランダ	30.93	29.38	29.17	30.59	28.62	29.15	31.27
ベルギー	28.22	27.10	26.99	27.47	26.33	27.44	28.58
ルクセンブルク	30.17	29.49	28.69	29.81	29.25	29.30	31.38
イギリス	28.16	28.69	29.86	26.76	26.13	26.09	29.16
アイルランド	27.77	28.60	28.23	27.92	26.66	27.20	28.55
デンマーク	31.01	31.43	30.87	30.80	30.26	30.86	32.34
ギリシア	33.08	32.70	33.28	32.33	32.21	33.47	34.55
スペイン	27.07	27.45	27.10	27.99	27.33	27.05	30.33
ポルトガル	29.28	28.98	28.70	28.39	28.49	28.97	32.17
オーストリア	27.61	27.69	26.91	27.64	27.76	27.83	31.76
フィンランド	n.a	32.55	32.99	32.05	32.15	32.72	33.97
スウェーデン	31.83	35.12	33.94	32.71	33.11	34.74	31.22

注) 乳脂率3.7%生乳に調整。

出所) DC [15] p.212 Table147を参考にして作成。

2002年における平均タンパク質含有率の推移を、それぞれ示している。イギリスの場合は、ここ数年の平均乳脂率は4.0%前後で推移しているが、EU15か国平均を下回っている。平均タンパク質含有率は3.0%前後で推移しているが、平均乳脂率と同様にEU15か国平均を下回っている。

表Ⅱ－7 平均乳脂率（1995～2002年）

	1995 (%)	1996 (%)	1997 (%)	1998 (%)	1999 (%)	2000 (%)	2001 (%)	2002 (%)
ドイツ	4.25	4.27	4.24	4.25	4.22	4.22	4.23	4.2
フランス	4.06	4.11	4.1	4.12	4.1	4.08	4.09	4.08
イタリア	3.61	3.62	3.66	3.72	3.69	3.66	3.67	3.67
オランダ	4.4	4.43	4.41	4.41	4.35	4.4	4.43	4.44
ベルギー	4.04	4.08	4.07	4.11	4.07	4.09	4.1	4.07
ルクセンブルク	4.2	4.25	4.22	4.21	4.21	4.2	4.17	4.19
イギリス	4.05	4.08	4.11	4.07	4.03	4.02	4.0	3.99
アイルランド	3.58	3.59	3.7	3.72	3.75	3.77	3.8	3.8
デンマーク	4.35	4.35	4.37	4.36	4.32	4.28	4.33	4.29
ギリシア	3.62	3.68	3.66	3.65	3.66	3.67	3.62	3.6
スペイン	3.7	3.73	3.71	3.75	3.72	3.75	3.74	3.75
ポルトガル	3.7	3.76	3.8	3.79	3.8	3.84	3.84	3.84
オーストリア	4.08	4.1	4.11	4.13	4.15	4.13	4.17	4.17
フィンランド	4.34	4.33	4.32	4.31	4.24	4.22	4.23	4.22
スウェーデン	4.33	4.29	4.28	4.25	4.19	4.18	4.2	4.17
EU15か国平均	4.07	4.1	4.09	4.11	4.08	4.08	4.09	4.07

出所) MDC[20] p.172 Table133 および DC[15] p.210 Table145を参考にして作成。

表Ⅱ－8 平均タンパク質含有率（1995～2002年）

	1995 (%)	1996 (%)	1997 (%)	1998 (%)	1999 (%)	2000 (%)	2001 (%)	2002 (%)
ドイツ	3.4	3.42	3.40	3.41	3.42	3.41	3.42	3.42
フランス	3.15	3.17	3.24	3.19	3.16	3.18	3.18	3.20
イタリア	3.15	3.16	3.25	3.26	3.26	3.26	3.27	3.29
オランダ	3.48	3.49	3.46	3.46	3.46	3.46	3.46	3.48
ベルギー	3.41	3.43	3.36	3.36	3.33	3.32	3.35	3.32
ルクセンブルク	3.36	3.38	3.36	3.36	3.38	3.37	3.38	3.38
イギリス	3.24	3.29	3.30	3.30	3.30	3.29	3.29	3.30
アイルランド	3.24	3.21	3.21	3.23	3.25	3.26	3.28	3.26
デンマーク	3.41	3.42	3.44	3.44	3.42	3.42	3.41	3.40
ギリシア	3.06	3.07	3.15	3.13	3.11	3.10	3.05	3.04
スペイン	3.08	3.08	3.07	3.09	3.11	3.13	3.13	3.14
ポルトガル	3.15	3.13	3.11	3.19	3.18	3.22	3.26	3.26
オーストリア	3.31	3.33	3.34	3.33	3.34	3.36	3.40	3.39
フィンランド	3.28	3.28	3.29	3.30	3.31	3.38	3.35	3.39
スウェーデン	3.34	3.33	3.32	3.31	3.30	3.28	3.28	3.32
EU15カ国平均	3.28	3.30	3.31	3.31	3.30	3.31	3.32	3.32

出所) MDC[20] p.173 Table134 および DC[15] p.211 Table146を参考にして作成。

Ⅲ. イギリスの生乳生産の動向

前述したように、イギリスは、イングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドの4つの地域（構成国）から構成されている。また、地方分権化が推進されているために、統一的な統計数値を活用することは困難になりつつあるとともに、統計数値の扱いには注意を払わなければならない。このような制約を踏まえて、これら4地域について整理していきたい。必要に応じて、イングランドあるいはイングランド・ウェールズに焦点を当てることにしたい。

表Ⅲ－1は、1970年以降における飼養乳牛と飼養肉牛の頭数の推移を示している。飼養乳牛の頭数について見ると、イングランド・ウェールズ、スコットランドでは大幅な減少傾向を示している一方で、北アイルランドでは若干の変動はあるものの増加傾向にある。イングランド・ウェールズでは、1970年には271万4,000頭であったが、1997年には200万頭を割り込み、2003年には170万頭強にまで減少している。約37%減である。ここ30年余りで100万頭以上減少している。スコットランドでも同様な傾向であ

り、1970～2003年の期間では32万1,000頭から19万9,000頭へと、12万2,000頭減少している。約38%減である。逆に北アイルランドでは飼養乳牛頭数を増加させている。1970年の20万8,000頭から、2002年には29万8,000頭となって30万頭に近づいた。2003年は29万頭であったが、1970年に比べて8万2,000頭増加している。約39%増である。

表Ⅲ－1 飼養乳牛・飼養肉牛頭数

	乳 牛				肉 牛			
	イングランド・ウェールズ(千頭)	スコットランド(千頭)	北アイルランド(千頭)	イギリス(千頭)	イングランド・ウェールズ(千頭)	スコットランド(千頭)	北アイルランド(千頭)	イギリス(千頭)
1970	2,714	321	208	3,244	667	417	220	1,304
1975	2,701	302	239	3,242	1,020	550	328	1,899
1980	2,672	282	270	3,224	764	479	224	1,467
1985	2,580	273	294	3,147	686	433	227	1,346
1990	2,324	244	278	2,846	880	469	269	1,618
1991	2,253	241	274	2,768	914	486	286	1,686
1992	2,178	233	269	2,680	926	496	296	1,717
1993	2,165	231	269	2,665	959	502	308	1,770
1994	2,205	234	274	2,713	980	506	309	1,794
1995	2,103	225	271	2,600	1,002	508	309	1,819
1996	2,079	224	281	2,584	1,017	510	315	1,842
1997	1,981	216	279	2,476	1,007	509	324	1,841
1998	1,934	215	288	2,422	1,049	530	345	1,924
1999	1,938	214	286	2,439	1,050	525	332	1,907
2000	1,844 ¹⁾	207	284	2,336	1,002 ¹⁾	519	318	1,839
2001 ⁴⁾	1,760 ¹⁾	196	295 ³⁾	2,251	906 ¹⁾	489	312 ³⁾	1,708
2002	1,730 ¹⁾	199 ²⁾	298 ³⁾	2,227	861 ¹⁾	489	307 ³⁾	1,657
2003	1,703 ¹⁾	199 ²⁾	290 ³⁾	2,192	955 ¹⁾	450	295 ³⁾	1,700

注)

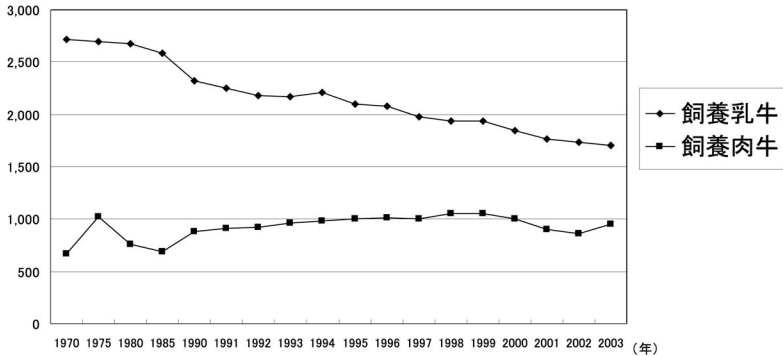
- 1) 暫定値。
 - 2) 確定値。
 - 3) 確定値。
 - 4) 2001年は口蹄疫が発生した。
- 出所) MDC[20] p.15 Table3を参考にして作成。

他方、飼養肉牛頭数について見ると、変動があるものの緩やかな増加傾向を示している。イングランド・ウェールズでは、1990年代後半以降100万頭台となった。2001年の口蹄疫の発生によって頭数を減らしているが、2003年には95万5,000頭となっている。スコットランドでは1998年の53万頭を境に減少傾向を示し、2003年には45万頭となっている。北アイルランドでもスコットランドと同様の傾向を示し、1998年の34万5,000頭から2003年には29万5,000頭に減少している。しかし、イギリス全体では、2003年には頭数の回復が見られる。

イングランド・ウェールズについて図Ⅲ－1によって再確認したい。図Ⅲ－1から明らかなように、近年おける飼養乳牛と飼養肉牛の頭数格差の縮小は後者の増加よりも前者の減少が要因である。

図Ⅲ－1 イングランド・ウェールズの飼養乳牛・飼養肉牛頭数

(千頭)



出所) MDC[20] p.15 Table3を参考にして作成。

表Ⅲ－2は、1990～2000年におけるイングランド・ウェールズの飼養乳牛頭数規模別農場分布を示している。当該期間においては、飼養乳牛頭数は42万5,500頭減少しているが、各階層ごとの分布状況に劇的な変化は見

表Ⅲ－2 イングランド・ウェールズの乳牛飼養頭数規模別農場分布 (1990～2000年)

乳牛飼養頭数規模 (頭)	1990 (%)	1991 (%)	1992 (%)	1993 (%)	1994 (%)	1995 (%)	1996 (%)	1997 (%)	1998 (%)	1999 (%)	2000 (%)
3～9	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.4	0.4	0.3
10～19	1.5	1.5	1.5	1.5	1.3	1.4	1.3	1.3	1.1	1.0	1.3
20～29	3.3	3.4	3.4	3.1	2.8	2.8	2.7	2.7	2.5	2.1	2.8
30～39	5.7	5.8	5.8	5.5	4.9	5.0	4.8	5.2	4.8	4.1	4.9
40～49	7.4	7.4	7.4	7.2	6.7	6.9	6.5	6.4	6.4	5.3	6.7
50～59	8.0	8.1	7.8	7.6	7.1	7.2	7.2	7.6	7.3	6.4	7.1
60～69	8.0	8.1	8.1	8.0	7.6	7.5	7.3	7.3	7.3	6.7	7.6
70～99	22.3	22.7	22.8	22.3	22.1	22.3	22.2	22.3	22.9	21.5	22.1
100～199	32.8	32.6	32.8	34.0	35.9	35.6	36.3	36.0	36.5	39.8	35.9
200～	10.6	10.3	10.2	10.5	11.3	11.0	11.4	11.0	10.9	12.8	11.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
全乳牛飼養頭数(千頭)	2629.2	2251.8	2176.2	2163.7	2203.7	2102.4	2078.4	1979.7	1917.8	1936.3	2203.7

出所) DC[13]～DC[15] を参考にして作成。

られない。飼養乳牛頭数70頭以上規模の階層で70%前後を占めている。1990年と2000年を比較すれば、飼養乳牛頭数100頭以上規模の階層が若干増加している。

表Ⅲ－3は、1990～2002年における地域別平均飼養乳牛頭数規模を示している。イングランドは現在さらに8つの地域に区分されている。⁹⁾ イングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドのうち、平均飼養乳牛頭数規模ではスコットランドが最も大きい。スコットランドでは、1999年に100頭を達成し、2002年には142頭となっている。1990年の88頭と比較して、1.6倍以上の規模拡大である。イングランドはスコットランドに次いで平均飼養乳牛頭数規模は大きい。地域間での規模格差が見られる。2002年では、北部地域、ヨークシャー・ハンバーサイドでは80頭台、東部ミッドランド、西部ミッドランド、北西部地域では90頭台、東部地域、南東部地域、南西部地域では100頭以上となっている。その中でも南東部地域が最も大規模であり、1990年以降ほぼ100頭前後で推移し、2002年には125頭規模である。ウェールズはイングランドに比べて20頭前後規模が小さい。北アイルランドは1990年の41頭から2002年の63頭へと規模拡大しているが、4地域の中では平均飼養乳牛頭数規模が最も小さい。

表Ⅲ－3 地域別平均乳牛飼養頭数規模（1990～2002年）

	1990 (頭/農場)	1991 (頭/農場)	1992 (頭/農場)	1993 (頭/農場)	1994 (頭/農場)	1995 (頭/農場)	1996 (頭/農場)	1997 (頭/農場)	1998 (頭/農場)	1999 (頭/農場)	2000 (頭/農場)	2001 (頭/農場)	2002 (頭/農場)
イングランド													
北 部 地 域	63	63	63	64	67	66	66	65	68	73	77	81	84
ヨークシャー・ハンバーサイド	61	60	60	61	64	63	64	64	66	70	73	78	81
東部ミッドランド	70	70	70	72	74	74	76	74	75	80	83	88	92
東 部 地 域	87	85	85	86	90	90	91	87	86	90	97	105	104
南 東 部 地 域	100	97	98	97	102	100	104	102	102	109	114	121	125
南 西 部 地 域	78	77	77	79	83	82	83	82	83	89	91	97	101
西部ミッドランド	73	72	73	74	77	76	79	77	79	83	85	90	95
北 西 部 地 域	73	74	74	76	79	79	76	75	77	82	86	90	97
イングランド	74	74	74	75	79	78	79	78	80	85	88	93	98
ウェールズ	55	56	55	57	59	58	61	60	62	66	69	74	76
イングランド・ウェールズ	71	71	71	72	75	74	76	75	77	82	85	90	94
スコットランド	88	88	88	90	92	90	93	94	97	100	102	107	142
北アイルランド	41	41	41	43	44	45	47	48	51	52	54	58	63
イギリス全体	67	67	67	69	71	71	72	72	74	78	80	85	92

注) イングランド、ウェールズ、スコットランドでは、乳牛飼養頭数10頭未満規模を除いている。出所) DC[14] p.28 Table11, MDC[20] p.18 Table7を参考にして作成。

表Ⅲ－４は、1995/96～2002/03年度におけるクォータ数量枠の推移を示している。出荷形態クォータ数量枠（dairy quota or wholesale quota）は、生乳生産者（農場）から乳業者（生乳処理加工業者）に出荷される生乳（deliveries to dairies）を対象としている。直接販売クォータ（direct sales quota）は、生産者から消費者に直接販売される牛乳・乳製品を対象にしている。クォータ数量枠は、商業的生乳生産者が大多数を占めて生産者小売商は少ない実態を反映している。イギリス全体で約141億ℓ後半台の水準である。そのうち出荷形態クォータ数量枠は、2000/01年度以降140億ℓ前後である。クォータ数量枠は、当然のことながらイングランドが最も大きい。しかし、ほぼ漸減傾向であってイギリス全体の70%を下回りつつある。北アイルランドは、1995/96年度は13億9,780万ℓであったが、2002/03年度では16億7,020万ℓと、クォータ数量枠を2億7,240万ℓ拡大させている。

表Ⅲ－４ クォーター数量枠（1995/96～2002/2003年度）

	1995/96 (百万ℓ)	1996/97 (百万ℓ)	1997/98 (百万ℓ)	1998/99 (百万ℓ)	1999/2000 (百万ℓ)	2000/2001 (百万ℓ)	2001/2002 (百万ℓ)	2002/2003 (百万ℓ)
〈イングランド〉								
出荷形態クォータ数量枠	9897.3	9882.1	9826.5	9823.8	9802.1	9824.6	9795.2	9743.7
直接販売クォータ数量枠	229.1	205.8	190.7	175.3	158.3	146.6	139.2	134.2
合計	10126.4	10087.1	10017.2	9990.0	9960.4	9971.3	9934.4	9877.9
〈ウェールズ〉								
出荷形態クォータ数量枠	1436.6	1436.1	1440.1	1430.0	1430.3	1421.6	1421.6	1433.8
直接販売クォータ数量枠	7.2	5.6	5.6	5.6	5.8	4.7	4.6	4.0
合計	1443.8	1441.7	1445.6	1435.6	1436.1	1426.3	1425.8	1437.8
〈スコットランド〉								
出荷形態クォータ数量枠	1163.8	1155.6	1159.9	1152.2	1144.0	1131.0	1143.9	1167.3
直接販売クォータ数量枠	25.8	24.3	23.6	22.1	20.5	19.4	17.0	13.2
合計	1189.6	1179.9	1183.5	1174.3	1164.5	1150.4	1160.9	1180.5
〈北アイルランド〉								
出荷形態クォータ数量枠	1387.4	1440.1	1502.2	1543.1	1592.0	1616.3	1646.5	1665.5
直接販売クォータ数量枠	10.4	8.4	8.5	6.3	5.3	5.3	5.2	4.7
合計	1397.8	1448.4	1510.7	1549.5	1597.4	1621.5	1651.7	1670.2
〈イギリス〉								
出荷形態クォータ数量枠	13885.2	13913.8	13928.7	13949.0	13968.4	13993.6	14006.8	14010.3
直接販売クォータ数量枠	272.5	244.1	228.4	209.3	189.9	176.0	165.9	156.1
合計	14157.7	14157.9	14157.1	14158.4	14158.4	14169.6	14172.8	14166.4

出所) DC[13]～DC[15]、MDC[20] p.32 Table17を参考にして作成。

表Ⅲ－５は、1995/96～2002/03年度における恒久的クォータ数量枠保有生産者の推移を示している。恒久的クォータ数量枠（permanent

quota) は、農場（生乳生産者）に配分された基本的生産枠である。言い換えれば、生乳生産に従事する農場に割り当てられるのである。1995/96～2002/03年度の期間において、イギリス全体の恒久的クォータ数量枠保有生産者数は3万9,094人から3万530人に、8,564人減少している。

やはりイングランドでの減少数が顕著である。出荷形態クォータ数量枠保有生産者の減少が多く、1995/96年度の2万4,468人から2002/03年度の1万8,021人となり、6,447人減少している。25%以上の減少である。直接販売クォータ数量枠保有生産者は1995/96年度では1,767人であったが、2002/03年度には801人と、966人減少している。約55%の減少である。ウェールズ、スコットランド、北アイルランドでも、イングランドとほぼ同様の傾向を示している。これらの地域はもともと直接販売クォータ数量枠保有生産者が少ない。

表Ⅲ－5 恒久的クォータ数量枠保有生産者数（1995/96～2002/2003年度）

	1995/96 (人)	1996/97 (人)	1997/98 (人)	1998/99 (人)	1999/2000 (人)	2000/2001 (人)	2001/2002 (人)	2002/2003 (人)
＜イングランド＞								
出荷形態クォータ数量枠保有生産者	24,468	23,876	23,092	22,119	21,324	20,315	19,347	18,021
直接販売クォータ数量枠保有生産者	1,767	1,483	1,402	1,203	1,097	921	863	801
両者いずれかのクォータ数量枠保有生産者	24,530	23,935	23,157	22,174	21,376	20,363	19,396	18,822
＜ウェールズ＞								
出荷形態クォータ数量枠保有生産者	5,285	5,161	5,009	4,780	4,588	4,377	4,148	3,860
直接販売クォータ数量枠保有生産者	246	185	185	149	141	120	112	95
両者いずれかのクォータ数量枠保有生産者	5,291	5,168	5,023	4,789	4,594	4,385	4,158	3,955
＜スコットランド＞								
出荷形態クォータ数量枠保有生産者	2,580	2,442	2,366	2,269	2,199	2,088	1,986	1,914
直接販売クォータ数量枠保有生産者	180	136	144	102	92	76	65	58
両者いずれかのクォータ数量枠保有生産者	2,594	2,460	2,381	2,282	2,214	2,104	1,996	1,972
＜北アイルランド＞								
出荷形態クォータ数量枠保有生産者	6,679	6,622	6,528	6,465	6,389	6,242	6,046	5,730
直接販売クォータ数量枠保有生産者	136	105	107	72	58	57	55	51
両者いずれかのクォータ数量枠保有生産者	6,679	6,622	6,529	6,465	6,389	6,243	6,048	5,781
＜イギリス＞								
出荷形態クォータ数量枠保有生産者	39,012	38,101	36,995	35,633	34,500	33,022	31,527	29,525
直接販売クォータ数量枠保有生産者	2,329	1,909	1,838	1,528	1,388	1,174	1,095	1,005
両者いずれかのクォータ数量枠保有生産者	39,094	38,185	37,087	35,710	34,573	33,095	31,598	30,530

出所) DC[13]～DC[15]、MDC[20] p.31 Table16を参考にして作成。

表Ⅲ－6 は、1990～2002年における生乳処理加工工場向け出荷量の推移を示している。それぞれのミルク・マーケティング・ボード（MMBs）が解体された1994年以降は、イギリス全体の数値になっている。2000年を

表Ⅲ－６ 地域別生乳処理加工工場向け出荷量（1990～2002年）

	イングランド・ウェールズ (千t)	スコットランド (千t)	北アイルランド (千t)	イギリス全体 ¹⁾ (千t)
1990	12,059	1,230	1,345	14,634
1991	11,596	1,235	1,311	14,142
1992	11,529	1,190	1,309	14,082
1993	11,528	1,183	1,439	14,151
1994	n.a.	n.a.	n.a.	14,378
1995	n.a.	n.a.	n.a.	14,075
1996	n.a.	n.a.	n.a.	14,058
1997	n.a.	n.a.	n.a.	14,261
1998	n.a.	n.a.	n.a.	14,063
1999	n.a.	n.a.	n.a.	14,456
2000	n.a.	n.a.	n.a.	13,932
2001	n.a.	n.a.	n.a.	14,156
2002	n.a.	n.a.	n.a.	14,359

注)

1) Eurostat発表数値とは一致しない可能性がある。
出所) MDC(2004) p.48 Table32を参考にして作成。

除いては1,400万台の水準であり、2002年では1,435万9,000tであった。

表Ⅲ－7は、1980～2000年における地域別産乳記録事業参加農場の飼養乳牛1頭当たり年間平均産乳量の推移を示している。産乳記録事業(Milk Recording Schemes)に参加している農場数は、イングランド・ウェールズでは7,407農場(2002年3月)、スコットランドでは865農場(2001年)、北アイルランドでは1,130農場(2002年3月)であった。産乳記録事業では、飼養乳牛1頭単位で月1回、あるいは6週または2か月に

表Ⅲ－7 産乳記録事業参加農場の飼養乳牛1頭当たり年間平均産乳量

	イングランド・ウェールズ ¹⁾ (kg)	スコットランド ¹⁾ (kg)	北アイルランド ²⁾ (kg)
1980	5,428	5,136	5,118
1985	5,504	5,528	5,693
1990	5,887	5,947	5,818
1991	5,999	5,984	5,839
1992	6,101	6,074	5,907
1993	6,151	6,122	5,808
1994	6,153	6,161	5,813
1995	6,269	6,354	6,163
1996	6,548	6,505	6,181
1997	6,669	6,595	6,260
1998	6,755	6,728	6,202
1999	6,865	6,720	6,363
2000	7,016	6,849	6,645

注)

1) 8月～9月の1年間。
2) 1月～12月の暦年。
出所) DC[14] p.36 Table17を参考にして作成。

1 回搾乳時点における産乳量を記録し、当該生乳サンプルは乳質成分検査に出される。¹⁰⁾

飼養乳牛 1 頭当たり年間平均産乳量については地域格差が見られる。イングランド・ウェールズは、スコットランド、北アイルランドより大きい。イングランド・ウェールズでは、1980年に5,428kgであったが、2000年には7,016kgと増大している。20年で当該産乳量は1,588kgすなわち約29%増大している。同様に20年間で、スコットランドでは5,136kgから6,849kgへと約33%、北アイルランドでは5,118kgから6,645kgへと約30%、それぞれ産乳量を増大させている。

IV. むすびにかえて

以上のように、近年におけるイギリスの生乳生産の状況を整理してきた。ここで、小稿の要約と若干の考察をおこなうとともに、残された課題について考えたい。

まず、EU域内におけるイギリス生乳部門の位置に関してである。イギリス生乳部門は、総生乳生産量ではドイツ、フランスに次いで第3位であり、EU生乳部門の中心の一端を担っている。一農場当たり平均飼養頭数規模では最も大きく100頭規模に近づきつつある。また、飼養乳牛 1 頭当たり産乳量は7,000kgには達していないけれども、上位に位置している。他方、農場出荷生乳価格は下位に固定された状況である。

この生乳価格の低位水準は、イギリス酪農（生乳）部門の農業経営純所得低迷の基本的要因そのものであると考えられる。イギリスの生乳価格の低位性問題は、1973年のEU（当時EC）加盟以降、他の加盟国との価格比較が行われるようになって判明した問題である。¹⁰⁾ イギリスは、ギリシアやポルトガル、あるいはフィンランドやオーストリアのような平均飼養乳牛頭数規模が20頭以下の加盟国よりも、生乳価格が低い。

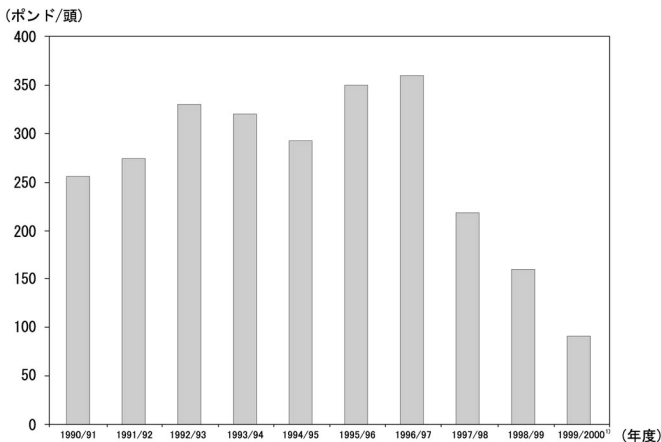
次に、イギリス全体については、飼養乳牛の大幅な減少が見られること

である。その要因としては、飼養乳牛頭数規模拡大は進行しているものの、農場数の減少とりわけ出荷形態クォータ数量枠保有生産者数の減少が国内において顕著であることが、挙げられる。また、低い生乳生産報酬ゆえに、酪農専業あるいは酪農主業から肉畜複合経営への転換も、考えられる要因であろう。

イギリス国内の地域的な特徴もいくつか見られる。イングランドはイギリスで最大の生乳生産地域であるが、平均飼養乳牛頭数規模ではスコットランドの方が大きい。イングランドはさらに同地域内を7つの地域に区分しているが、平均飼養乳牛頭数規模では40頭前後の格差が存在している。

これまでの浅薄な分析を踏まえて、残された課題について二点言及しておきたい。第一点目は、イギリス農業の危機といわれる状況下における生乳生産の収益性の問題である。図IV-1は、1990/91～1999/2000年度におけるイングランド・ウェールズの飼養乳牛1頭当たり純収益の推移を示

図IV-1 イングランド・ウェールズにおける飼養乳牛1頭当たり純収益
(1990/91～1999/2000年度)



注)

1) 予測値

出所) MAFF[17] p.23 Chart5.1を参考にして作成。

している。図Ⅳ－１から明らかなように、当該純収益は1997/98年度以降著しく低下している。その主な要因としては、①為替レートが下落したこと、②生産者生乳供給独占体組織であったミルク・マーケティング・ボードが廃止されたことによって、生乳供給者間の競争が起こったこと、が考えられる。ともあれ、生乳生産の収益性が持続的に回復していくか否か、今後も統計的に追跡していきたい。¹²⁾ また、小稿では経営分析には立ち入らなかったが、生乳生産部門の低収益性の要因について、生乳生産費用との関連も分析していきたい。

第二点目は、クォータ制度の運用と生乳生産構造の関連についてである。クォータ制度導入当初では、いくつかの研究調査報告や研究論文が発表された。¹³⁾ 特にクォータ制度の運用と生乳生産構造の関連で重要なことは、農場間におけるクォータ数量枠の譲渡すなわち賃貸借と売買である。このクォータ数量枠の移動性（mobility）と酪農廃業計画を通して生乳生産構造改革が進展していると考えられる。飼養乳牛頭数規模階層間および地域間におけるクォータ数量枠の移動について分析していきたい。

小稿は、これらの課題に取り組むにあたっての予備的考察としたい。

注)

- 1) ミルク・マーケティング・ボードに関しては、平岡 [10] が、イングランド・ウェールズのミルク・マーケティング・ボードを事例として、設立過程、組織と機能、展開過程、組織解体の背景を詳細に分析している。
- 2) 第2次世界大戦下においてイングランド・ウェールズのミルク・マーケティング・ボードが、生乳生産政策に関与していく過程については、平岡 [9] を参照されたい。
- 3) イギリスの1947年農業法に基づく農業政策の展開については、さしあたり三沢 [11] pp.139～152を参照されたい。

- 4) 不足払い制度の仕組みと運用実績については、たとえば小林 [1] を参照されたい。
- 5) クォータ制度について、同制度の導入の背景、仕組みおよび導入当初の状況に関する分析は、たとえば小林 [5] を参照されたい。
- 6) 平岡訳 [7] は、イギリスの生乳生産構造の変化について、クォータ制度導入以前3年間で以後3年間で比較している。生乳生産を抑制して需給調整が達成されたうえに、短期間に酪農家約3,600戸が廃業している。
- 7) 溝手 [12] p.121。
- 8) 2003/04年度におけるイギリスに割り当てられたクォータ数量枠は、1,442万8,885tであった。超過量は2万4,346t（クォータ数量枠超過率0.17%）であり、課徴金総額は867万4,000ユーロであった。
- 9) MMBが活動していたときには、イングランド・ウェールズを11の地域に分割していた。イングランド・ウェールズの統計数値は当該地域ごとにも公表されていた。この点については、たとえば小林監訳 [2] pp.8~10を参照されたい。
- 10) DC [14] p.30。
- 11) EC加盟国間において生乳価格を比較する場合の合理性と問題点は、従来から議論されてきた。たとえば小林監訳 [3] では、国際比較における技術的要因と経済組織的要因に焦点を絞って検討している。
- 12) たとえばイングランド・ウェールズでは、2002/03年度以降は飼養乳牛1頭当たり純収益が回復基調となることが予想されている。この点については、MAFF [17] p.24を参照のこと。
- 13) クォータ制度運用が生乳生産構造に与えた影響を統計的に整理した調査報告は、たとえば平岡訳 [7]、平岡訳 [8] が挙げられる。また、クォータ制度の理論的分析を試みた研究書では、たとえば小林監訳 [4] が挙げられる。

参考文献

- [1] 小林康平「欧米諸国における酪農政策 —財政とのかかわりを中心に—」『農林金融』第37巻第3号、pp.17～27、1984年3月。
- [2] 小林康平監訳・平岡祥孝訳『イギリスのミルク・マーケティング制度』農林統計協会、1986年。
- [3] 小林康平監訳・平岡祥孝訳『EC酪農の価格と所得 —国際比較に関する諸問題—』農政調査委員会、1989年。
- [4] 小林康平監訳・平岡祥孝訳『EC酪農における生乳クォータ制度』農政調査委員会、1991年。
- [5] 小林康平「EC生乳生産調整政策と加盟主要国の農業構造への影響」『農林業問題研究』第116号、pp.112～120、1994年9月。
- [6] 平岡祥孝訳・三沢嶽郎解題「イギリスの牛乳流通政策の展望 —MMBとEEC—」『のびゆく農業』No.742、1987年8月。
- [7] 平岡祥孝訳・小林康平解題「イギリス酪農におけるクォータ制度導入による生産構造の変化」『のびゆく農業』No.779～780、1990年3月。
- [8] 平岡祥孝訳・小林康平解題「イギリス酪農におけるクォータ制度運用5年間の実績」『のびゆく農業』No.811～812、1992年11月。
- [9] 平岡祥孝「第2次世界大戦下のイギリスにおける生乳生産政策に関する一考察」『地域農林経済学会大会報告論文集』1997年3月、pp.35～40。
- [10] 平岡祥孝『英国ミルク・マーケティング・ボード研究』大明堂、2000年。
- [11] 三沢嶽郎「比較農政論 —イギリスと日本—」『比較社会経済体制論』大東文化大学大学院経済学研究科、1979年、pp.122～160。
- [12] 溝手芳計「イギリスの酪農経営と農協」村田武編『再編下の家族農

業経営と農協—先進輸出国とアジア—』筑波書房、2004年、pp.121～151。

- [13] The Dairy Council (DC), *Dairy Facts and Figures 2000 edition*, 2001.
- [14] The Dairy Council (DC), *Dairy Facts and Figures 2001 edition*, 2002.
- [15] The Dairy Council (DC), *Dairy Facts and Figures 2002 edition*, 2003.
- [16] Department for Environment, Food and Rural Affairs (DEFRA) *et al.*, *Agriculture in the United Kingdom 2003*, The Stationery Office, 2004.
- [17] European Commission, *The Agricultural Situation in the European Union 2000 Report*, Office for Official Publications of the European Communities, 2002.
- [18] European Commission, *The Agricultural Situation in the European Union 2001 Report*, Office for Official Publications of the European Communities, 2003.
- [19] Ministry of Agriculture, Fisheries and Food (MAFF), *Current Situation and Future Prospects in the Dairy Sector*, 1999.
- [20] Milk Development Council (MDC), *Dairy Facts and Figures 2003*, 2004.